日刊自動車新聞

発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料　1カ月5343円＋税
電話　東京(03)5777―2351代表
©日刊自動車新聞社2020

6月18日
（木曜日）

独自の加工技術で新たな受注を獲得

オーハシテクニカ　柴崎　衛社長

インタビュー

オーハシテクニカは、約300社の部品メーカーと協業する「ファブレス機能」と自社で開発・製造する「ファクトリー機能」を併せ持ったビジネスモデルをグローバルで展開する。独自の加工技術が採用を拡大しており、さらなる用途拡大や新加工技術の開発への取り組みも進める。（村上　貴規）

―前期の振り返りと今期の見通しは

「前期は世界経済の低迷を背景とした自動車生産台数の減少の影響で減収減益となった。今期は世界的に流行する新型コロナウイルスが最大の懸念材料になる。だが、提案活動では自動車の次世代技術での採用を探っていた加工技術で、新たな受注を獲得できた。将来の収益への貢献が期待できる」

〝第2の加工技術〟

―独自の加工技術での新たな受注とは

「金属の溶接技術『圧入プロジェクション接合法』を用いた商品が新たに大手自動車メーカー2社で採用が決まった。自動運転や電動化に必要なアクチュエーターに強度が求められることが調査で分かり、提案を進める中で、この溶接技術が従来技術に比べて高い強度を出せることが評価された。電動パーキングブレーキの機構部品として使われる見込みだ。限定的だった適用部品領域を着実に広げられている」

「今期もさらなる受注獲得に向けた研究を開始し、加工技術が適用できる部品サイズの拡大や材料の多様化などで用途を広げていく。エンジンや駆動モーターなどパワートレーン部品に切り込んでいきたい。同時に第2の独自加工技術の開発も進めていく」

鈴鹿工場を強化

―ファクトリー機能も強化していく

「国内は鈴鹿工場の対応力強化がメインになる。今年の7月をめどに切削加工を行う仙台工場を発展的に閉鎖し、切削加工を鈴鹿工場に集約するとともに対応力の拡大を図る。また、グループ会社でも製造ラインの増設や大型溶接機の導入など設備投資を継続的に行い生産対応力を向上させる」

「海外でも引き続き、米国、中国、タイの主要3拠点で国内と同様に圧造、プレス、切削の3つの加工技術に対応できる生産体制の構築を進める。現在、中国では新規部品の立ち上げに向けた建屋の拡張と新規設備の導入が進み、米国でも来年以降の新規部品の量産に向けた体制づくりが進む。タイでは設備が老朽化したラインのリニューアルを行い、新ビジネスに対応できるようにしていく」

コロナ後見据え

―新型コロナで新しい常識が求められている

「われわれは足で稼いだ情報からニーズを探ってきた。今後は都市封鎖なども想定し、オンラインも組み合わせて情報を収集できる体制をつくる必要がある。また、『ファブレス機能』の調達先がリスクなどを抱える状況にあれば、素早く状況を察知するとともに、情報共有ができる体制も築いていきたい」

―アフターコロナを見据えた戦略は

「新型コロナのインパクトは非常に大きい。ただ、悲観ばかりではない。自動車は過去に、金融危機や災害による需要低迷から最も早く回復した。こうした環境下でサプライヤー同士の競争が激化すると考えられるが、当社ではマーケティングの推進と優位性ある独自技術を磨くことで需要が回復した時に選ばれるサプライヤーを目指していく」

〈プロフィル〉
しばさき・まもる　明治学院大学文学部卒。1989年オーハシテクニカ入社。2003年執行役員、07年取締役、14年常務取締役、15年6月から現職。64歳。埼玉県出身。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

©日刊自動車新聞社　無断複製転載を禁じます。